音 楽 科 授 業 案

日　時　平成２５年１０月２６日（火）
生　徒　２年Ａ組　男子１７名　女子１８名　計３５名
授業場　音　楽　室
授業者　齊　藤　貴　文

１　題材名　「混声合唱の味わい」（表現領域：歌唱分野）

題材：合唱曲『この地球のどこかで』　作詞　三浦恵子／作曲　若松　歓

〔共通事項〕ア　強弱　速度　音色　旋律　テクスチュア　イ　フレーズ

２　題材について

（１）題材観

レコードの登場から１３０年，世界はデジタル化が進み，音楽は単に録音することだけにとどまらず，録音を通して簡単に編集することが可能となった。さらに，ボーカロイドをはじめとする音声合成技術も進歩し，現代において人気を博していることは周知の通りである。しかし，技術によって造られた音は本当に私たちの琴線に触れることはあるのだろうか。

第２期教育振興基本計画（答申）には社会を生き抜く力の養成が叫ばれ，生涯にわたる学習を行える素地の育成が求められている。音楽科において，このことを達成するためには，本物を通した感動体験や音楽体験が不可欠だと考える。

しかし，子どもたちを取り巻く環境は精巧に造られた音環境が多く，擬似でありながら本物ではないものに溢れている。造られた音楽は本物の音楽とは異なり味わいが薄く，記憶にも留まりにくい。このような環境に身を任せていると生涯にわたって音楽を愛好する姿には近づいていかないのではないだろうか。

本実践では歌唱の中でも混声３部合唱を取り上げる。音楽活動において合唱は，仲間とのかかわりがとても重要な活動である。自分一人だけではなく仲間と共に創り上げる音楽活動だからこその難しさがあるが，それを共同作業の中において克服する過程を通して，子どもたちはやりがいや歓びが味わえると考える。

本題材の『この地球のどこかで』は，三浦恵子作詞・若松歓作曲の混声３部合唱曲である。歌詞の内容は中学生にとって心情移入しやすく，イメージがしやすい。旋律の動き，強弱や和声のつながりから生まれる音楽の変化が比較的とらえやすい楽曲となっており，詩と音楽のかかわりを感じ取りながら音楽表現を深めていくことができる曲である。ただ歌うだけではなく，よりよく歌うために必要なことを感じさせるためにはふさわしい楽曲である。

今回の実践を通して，楽曲そのものの魅力を味わうことはもちろんだが，合唱という仲間とのかかわりを通した活動の中において仲間と共に音楽を創り上げる喜びとともに，やりがいを感じ，表現活動のよさや楽しさ，味わいを十分に感得させ，一層音楽のよさを味わわせていきたい。

（２）生徒観

（３）指導観

以上のことから，生徒の音楽体験を豊かにし，仲間とともに音楽をつくることを意図し「混声合唱の味わい」という題材を設定した。生徒は表現領域の中でも特に歌唱分野に意欲が高いが，仲間とのかかわりあいの中において現状に満足することなく，試行錯誤を通して，自分たちの力でよりよい音楽表現ができることの実感を味わわせていきたい。

そこで本題材では，自らの音（声）と他者の音（声）のつながりや重なりの中から生まれる音楽のよさをより強く感じさせるとともに，より一体感のある音楽，より洗練された音楽を自分たち自身がつくるためには，よく聴き，自らの意志でコントロールすることが大切なことを意識させていきたい。そのために，本時では，研究の視点でもある「教科語彙の可視化・記号化」を行うこと，および「モデル演奏との比較聴取」を通して自らの演奏を客観的に聴取し批評していく活動を取り入れることによって，より深い音楽のよさを体感していくことを期待している。

※研究の視点（本実践に焦点化した研究に関わる手だて）

①音楽科における題材構成・授業展開の手だて　モデル演奏との比較聴取を行い自らを批評…A

表現活動においてこれまで一時間において，あるいは題材を通した成果として，自分たちの演奏を「聴く」活動はあっても，モデル演奏と比較する活動を一単位時間において行うことは無かった。モデルという一つの「音楽美」が絶対的な存在になることを避けること，他との比較ではなく，自分たちの活動の成果を振り返ることに重点を置いていたためである。しかし，ただ演奏するだけではなく，よく演奏するにあたり，モデル演奏を聴いてそのよさについて吟味すること，自己の演奏を振り返り改善することは，自らの演奏技術向上のためにも必要なのでないかと考えた。

本時において，モデル演奏との比較聴取を通して，改善点及び修正点を「聴く」という主体的な行為によって音楽表現のよさのポイントを探り，自己の演奏を振り返り，より主体的に創意工夫して音楽表現を追求するための手だてとした。

②音楽科における生徒の認知に働きかける手だて　音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化…B

教科主題の「感覚の言語化」を行うために，教科語彙を記号化・可視化し，楽譜に記入させることで，表現する場所や内容を意識させるための手だてとした。

本時では，特に音色と強弱に焦点化し，楽譜への記号の付け方，書き方を示し，楽譜に記述させることで表現活動の意識を深めていく。さらに「聴く」活動を通して，楽譜には書かれていない部分の表現を聴きとり，記号，及び言葉で楽譜に記入させることを手だてとした。

３　題材の目標

歌詞の内容や曲想を味わい，声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして表現を工夫し，歌うことができる

４　評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
ア　歌詞の内容や曲想を味わい，楽曲にふさわしい表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 イ　声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	ア　音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取り，言葉の特性を生かし，声部の役割や音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。	ア　創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができる。

５　題材指導計画（４時間計画）

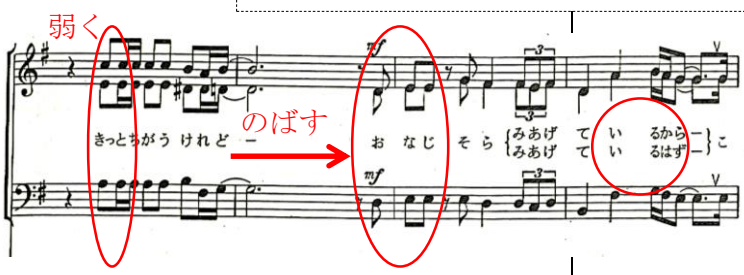
	学　習　事　項	主な学習活動・手だて		評　価		
				関	創	技
関連	「曲想を味わって」混声３部合唱曲『花は咲く』（岩井俊二作詞・菅野よう子作曲） 「混声合唱の喜び」混声３部合唱曲『春に』（谷川俊太郎作詞・木下牧子作曲）					
1	○『この地球のどこかで』と出会い ・歌詞の内容と音取り	○『この地球のどこかで』の歌詞の内容や曲想を味わい，声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして表現を工夫し，歌うことができる。	音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化 B	ア		
2	○『この地球のどこかで』の曲想の変化を感じ取ろう。 ・旋律の変化とフレーズ感	○楽曲の曲想の変化を感じ取り，発音や発語，強弱の効果を感じ取り，歌うことができる。		ア	ア	
3 本時	○『この地球のどこかで』のよさを深めよう。	○『この地球のどこかで』の演奏におけるニュアンスの変化を感じ取る学習に主体的に取り組み，創意工夫して演奏表現をする。 【手だて】模範演奏と自分たちの演奏を比較聴取し，吟味して音楽表現を創意工夫する。　A		イ	ア	
4	○曲にふさわしい表現で『この地球のどこかで』を合唱しよう。	○『この地球のどこかで』の言葉や響きの美しさ，旋律の動きからくる強弱などを意識し総合的な演奏表現をする。		イ		ア
関連	「歌詞の内容を味わって」卒業式の歌　「君を忘れない」「仰げば尊し」					

６　本時案

（１）　本時の目標

モデル演奏を聴取し，ニュアンスの変化を感じ取る活動に積極的に取り組み，工夫して歌うことができる。

（２）　本時の展開（３／４）（○…発問，△…補助発問，□…指示，説明）

主な学習活動（下位目標）	教師の働きかけ・手だて	【評価方法】・備考
１．演奏のポイントに気をつけて歌うことができる。	□「この地球のどこかで」を歌いましょう。 【演奏のポイント】 ・姿勢　・発音・発語　・強弱　・音程　など	・クリップボード ・楽譜　【発表】
ニュアンスの変化を逃さず感じ取り，２番を工夫して歌おう！　聴きとり批評する手だて		
２．それぞれのグループに分かれ，ニュアンスの変化を感じとり，改善の方向性を考えることができる。	○ニュアンスの変化を出すためにはどういうふうに歌ったらいいんだろうか。 □ニュアンスを探るためのポイントは次の３つです。 ・変化の様子・変化の場所・変化の程度 □２番から最後までの部分をモデル演奏を聴いて，変化が大きいところ探り，楽譜に言葉や記号で書き込みましょう。  △どのような変化でしたか △発語や音の長さはどうなっているかな △強弱の変化を細かく感じ取ろう	発音：子音・母音 ○ 息継ぎ：∨ 音の伸び：→…黒 強弱：＜ ＞ その他：特徴的な部分は破線や記号，言葉などで記入 音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化・・・手だて ・Ｇｒを３つに分けて，聴く場所を限定する。 ・Gr ごとに検討・吟味しまとめる。聴きとり批評する手だて ・パートごとに集まり Gr ごとに考えた演奏のポイントを拡大譜に書き込む。
３．パートごとに集まり，改善の方向性を楽譜に記入し，練習することができる。	○どうしたらよりよく改善することができるだろう。	【WS・発表】
４．表現の改善するポイントを意識して合唱することができる。	□Ｇｒごとに内容を交流し，演奏のポイントを拡大譜にまとめ，ポイントを意識して合唱練習をしましょう。	
５．全体合唱を行い，再度比較聴取を通し良くなった点及び，課題を書き込むことができる。 ・強弱の幅が少ない ・強弱の変化がわかるようになった ・はっきり聞こえない部分がある ・音の長さがよくなった ・もっと強く言ったほうがいいと思う	○もう一度モデル演奏と自分たちの演奏　を聴き比べて，良くなった点及び課題はどこだろう。…聴きとり批評する手だて △ニュアンスの変化をが出し切れていない場所はないだろうか。	【WS・発表】
６．本時のまとめの合唱を行い，本時の録音を聴きながらWSに本時の感想を書くことができる。	□本時の成果を聴きながら WS に感想を書きましょう。	【WS】